

平成26年度「日向市男女共同参画推進審議会」が開催されました。

男女共同参画推進審議会は、「日向市男女共同参画推進条例」に基づいて設置され、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策及び重要事項を調査審議していただく市長の付属機関です。

平成26年度第1回日向市男女共同参画推進審議会が、平成26年7月3日（木）に開催されました。

**【第1回日向市男女共同参画推進審議会】**

■日時：平成26年7月3日（木）午後1時30分から午後3時00分

■会場：日向市役所2階 第1委員会室

## 会 議 録

会議の名称	第1向日向市男女共同参画推進審議会
開催日時	平成26年7月3日（木） 13時30分から15時00分まで
開催場所	日向市役所2階 第1委員会室
出席者	副市長、植田委員、直野委員、中城委員、塩月委員、沖田委員、寺町委員、片桐委員、中西委員、切通委員、松本委員、林田委員、黒木委員、橋口委員 事務局 2名
議題	○委嘱状交付 ○会長、副会長の選任 ○「第4向日向市男女共同参画プラン」及び審議会の役割について
会議資料の名称 及び内容	第4向日向市男女共同参画プラン（冊子及び概要版）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>■開会</p> <p>■委嘱状交付</p> <p>■会長及び副会長の選任について 会長に植田幸男氏、副会長に直野あつみ氏を選任した。</p> <p>■第4向日向市男女共同参画プラン及び審議会の役割について ※事務局より、男女共同参画の基本的な考え方、男女共同参画プランの策定、第4向日向市男女共同参画プラン及び審議会の役割について説明。</p> <p>○会長 ・事務局から説明があったが、皆さんの方から何か意見、質問等はないか。</p>	

プラン以外で男女共同参画に関することでも構わない。

啓発事業として男女共同参画社会づくり推進ルーム協議会が指定管理者として委託を受けているとのことであるが、事業の紹介をして欲しい。

○委員

- ・日向市男女共同参画推進ルームを通称「さんぴあ」と呼んでいるが、指定管理者として「日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム協議会」が委託を受けている。「さんぴあ」は男女共同参画活動の拠点として市民がいつでも気軽に利用できる学習、交流の場である。隣に市民活動の活動を支援する市民活動支援センターもあり、どちらも使用料も無料で多くの方に利用していただきたい。男女共同参画の推進事業として基礎講座や講演会等いろいろな事業も取り組んでいるので、皆さんもぜひ参加して欲しい。また「男女共同参画」というと別世界のような感覚だが、国が進めている取り組みであり、思い合ったり、認め合い、協力し合ったり、男性も女性もすべての人が生きやすくしましょうということだと思う。地域や企業等でも男女共同参画の出前講座をしており、また「さんぴあ」にもおいでいただきたい。

○委員

- ・公民館など地区でもこの「さんぴあ」の出前講座等を活用していただけたらと思う。「男女共同参画」の言葉がなかなか難しいとあったが、この「男女共同参画」に替わる市民になじみやすい言葉はないかみなさんで考えてみてはどうか？

○委員

- ・日向市の男女共同参画の推進について行政と一体となって推進できたことは、行政の積極的な協力があったからこそこのような取り組みができたと思う。

○委員

- ・先日、東京都議会で女性に対する不適切発言があったが、皆さんはどのように感じたか意見をお聞きしたい。

○委員

- ・東京都議会においてあのような発言があるということは、男女共同参画についてまだまだ進んでいない、これだけ言っているのに全然進まないのはどこに問題があるのだろうか？と思った。職場でも上司が男性社員に対して「お前は家庭を守って稼がんといかんちやろ？」と言っているのを耳にしたことがある。男女共同参画というのは、何もかも私がというのではなく、私は私らしく、私も生きやすく、子どもも生きやすく、旦那も生きやすく、というような家庭にしたいと思い、私なりに取り組んできた。30年たっても課題は多すぎる。人の意識はなかなか変わらない、それでも少しずつ少しずつ変えていかないことにはどうしようもないとつくづく感じたところである。事あるごとに啓発していく、その積み重ねによって人の意識が少しずつ変わっていくのかなと思う。

○委員

- ・都議会で野次を受けた女性議員は笑って返して、一瞬はにかんだように笑ってその場を

おさめようとしたことにどんな心境だったのだろうか。「なんと、発言したのですか」と言っていれば、その場でおさめられたのではないかと思ったが。

○委員

・女性議員が最初に毅然とした態度で対応して欲しかったなと同じ女性として思った。

○委員

・審議会の役割は、調査審議等をしてから市長に意見を述べるとあるが、調査が可能なのか、具体的にはどのような形で提案できるのか。

○事務局

・各担当課から担当事業の実施状況を報告してもらい、事務局でその報告書に基づいてまとめ、そのまとめた資料を事前に委員さんに送り、委員さんの方でチェックし、例えば、各担当課の事業をやっているかどうか、やっていなければどうしてやっていないのか、審議会で審議していただきご意見等をいただけたらと考えているところである。また、今の計画が28年度で終わるので、新しい計画を策定しなければならないが、次の計画に向けて、市民を対象にアンケートをとり、5年間に男女の平等の意識が高まったかどうかのアンケートの結果をみて判断していただき、男女平等の意識が高まり、男女平等の社会が日向市でつくり上げられているか、男女平等感の意識が低いということであればこの事業は続けた方がいい、事業の内容の計画を見直した方がいい等、審議会の委員さんより意見等を伺い、第5向日向市男女共同参画プランができあがるということになるかと思う。

○委員

・あくまでもプランに対する審議、意見ということになるのか。

○事務局

・新たな視点等があれば、それは意見として積極的に出していただいていたきたい。

○委員

・PDCAサイクルでプランの進行管理をしていくと説明であったが、この計画プランが5年計画で進行管理は1年なのか？

○事務局

・1年である。各担当課が事業を検証していくことで改善につながっていくのではないかと考えている。

○委員

・外では男女共同参画といいながらも、家庭ではどうなのだろうか？子どもには自分のことは自分でさせているが、夫に関しては世話を焼いてあげていることが多いのではないかと。子供の頃から自分のことは自分でする、きちんと教育していく、方向付けをしてあげることが、この事業にしても大事なことはないかと思う。今まで40年も50年も染み込んだものはなかなか治らないと思う。こどもの頃から含めたそういう取り組みをしていかないといけないと思う。

○委員

・家庭からの男女共同参画という問題を考えた時に、世の中、男性が出産はできない、女性しか出産できない、女性が出産に至るまでに、性教育、女性はこうあるべき、男性はこうあるべきということをきちんと子どもに学ばせたうえで、命ある男性女性が共に社会に生きているのであれば、どういう立場でどのようにしていかなければいけないか、学ぶことは大事なことではないかと思う。今の社会はあまりにも男性社会、女性社会と、区切られているような気がしている。命を守るためには、男性女性関係ないのではないかと、声を大きくして言いたいことは、命を育んだ女性を大事にして欲しい、女性も自分が授かった子供は大事に育てて欲しい。その子供たちの取り巻く大人や環境、住みやすい社会が必要、女性が子供を産み育てるのに、今の社会は冷たすぎる、本当にその立場に立ってあげられるように、女性ももっと声を大きく言って欲しい。企業も保育環境や子供を育てるための施設等を充実させるなど、いろいろな声をあげられるようになると、女性ももっと社会進出しやすいのではないかと思う。行政によりただ数字がこう出たとかではなく、一つでも二つでも育児をしやすい環境をつくっていただけたら、男性女性というより一つの命を育むうえで審議会の中の活動になっていくのではないかと思う。

○委員

・理想は立派だが、実際のところ家庭生活ではどうなのか、理想どおりにはいかないということですね。それは、風土的なものや社会的なものであったり、市レベルでは解決できない、行政としては計画を策定し、計画に沿って事業をしていることはわかるが、先ほどの意見について根本的なものに対する取組みはどんなものがあるか？

○事務局

・子育て支援に関しては、こども課の方で保健師が訪問して育児の相談を受けたりしているが、発達段階に応じて、親以外の家族、地域、行政のフォローが詳細にできていないのが現状ではないかと思う。

○委員

・審議会の委員は、それぞれの組織の代表で構成されている。男女共同参画の意識を深めていけば、審議会だけにとどまらず広がりをもって全体でこの問題に取り組むことができると思う。それぞれの組織で委員さんがそれぞれの立場で持って帰って、この事業を生かしていただければいいのかなと思う。

○委員

・審議会委員としての役割がよくわからなかったが、今回改めて話を聞いて市が示した計画、内容に意見を述べ、また自分たちを含めて男女共同参画社会について自分たちができることをそれぞれのところで活動していけばいいのかなと思う。勉強していろいろな意見を言わせていただきたいと思います。

○委員

・一般的に私たちの時代と今の若者の時代とを見ていて「今の若い旦那さんたちは優しいよね。」という声を聞く。これは、男女共同参画の取り組みの上で、少しずつ少しずつ良くなってきているのではないかなと皆さんの話を聞いて感じた。

○委員

・夫は戦後生まれの「男子厨房に入らず」というような人だが、子どもたちは自分から進んです。共稼ぎしていた頃は、役割分担して夫は子どもを風呂に入れたり、洗濯をしたりしていたが、落ち着いてきたら何もしなくなった。家庭からという話が出ていたが、このような取り組みや活動があるから、今の若者、子ども達は、男女共同参画という考えでいるのではないかなと思う。この取り組みは、続けたらいいと思う。

○委員

・学校教育では、子ども達の学校生活の場では平等であるという意識が一番高い。学校教育の中で男女参画というと一番は人権教育、男女という一人一人の人権を尊重ということであり、特に日向市は人権教育に力をいれている。学校では、1人ひとりの得意分野を生かしましょうとあるが、日向市の教育委員会ではキャリア教育にここ何年か力を入れられており、人権教育もちろん性教育もあると思うが、いろいろな場面でいろいろな教育をしている。子ども達の学校生活の場においては、男女の平等感が高い方である。

○委員

・保育所は0歳から5歳児までおり、男、女として意識しながら生活はしていない。ほとんど、男も女も関係なく一人の人権として、大人も男だから女だからではなく一人の人間として、人として相手を尊重している姿が見られる。人としてのつきあい方、関わりあい方をみんなで学ぶということが、男女共同参画なのかなと思った。

○委員

・男性と女性はそれぞれ体のつくりが違うので、男性も女性もすべて同じということではない。異なる性、男女それぞれ認め合ったうえで、人として思いやりの心、感謝の気持ち、認め合う尊敬の心を持って、次世代を背負う子どもたちのために基礎づくりをしていかなければと思う。

○委員

・男女共同参画事業のおかげで、確かに地域では女性の進出はすごいと思う。地域においては活発に女性が活動している。ただ職場では歴史が浅いから、女性の社会進出においては長年のキャリアを持った方、ベテランの方もいるが、男性に比べると女性を管理職に登用したいと思ってもどうしても差がある場合これはやむを得ないと思う。あまり慌てず、そここのこだけを捉えると、市職員の中で女性の管理職は何人かとかではなく、資質などところで考えて欲しいところもある。グローバルな観点から捉えて、事業を進めて行ったらいいと思う。

○委員

・日向市の例だと思いますが、以前、女性の管理職登用ということで声をかけてみたけど、

女性の方から「不安だ」という現実があることを聞いた。女性の管理職の割合が高ければいいという単純な問題ではないというのは、この問題の難しいところではあると思うが、今後考えていきたいと思う。

15時00分 閉会

■閉会